

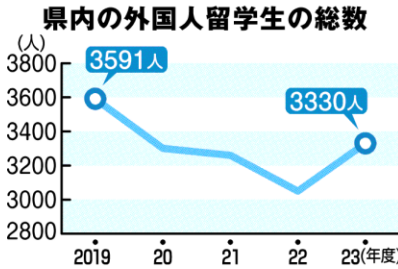


留学生 5年ぶり増 23年度、3330人に

感染対策 大幅緩和で

2023年度に県内の大学や大学院などに在籍していた外国人留学生は109カ国・地域の計3330人で、22年度より280人(9・2%)増えた。新型コロナウイルス禍もあり減少が続いていたが、5年ぶりに増加。県は感染防止の水際対策が大幅に緩和されたことが主な要因とみる。人口10万人当たりの全国順位は2年連続3位だった。

日本学生支援機構(横浜)が公表した在籍情報に基づき、県が県内の大学、大学院、短大、高等専門学校を対象に集計した。人数は23年5月1日時点。留学生の出身は中国が最も多い628人(22年度比23人減)。2位以降は▽韓国 479人(同47人減)▽インドネシア 393人(同2人増)▽タイ 24



順位	都道府県	人数	前年度比
1	京都府	514.9人	16.8%
2	東京都	337.4人	14.4%
3	大分県	303.8人	10.3%
4	山梨県	158.3人	23.6%
5	福岡県	143.9人	▲0.9%

※▲はマイナス。数値は2023年5月1日時点

0人(同38人増)▽ベトナム 214人(同29人減)1。22年度からタイとベトナムが入れ替わった。大学別は立命館アジア太平洋大(別府市)が2662人で県全体の8割を占める。昨年4月にサステイナビリティー観光学部を新設したこともあり270人増えた。九州では最も多く、全国は22年度の7位から6位に上昇した。国内の留学生総数は13万8357人で1万845人(8・5%)増えた。人口10万人当たりのトップは京都府で514・9人(74・2人増)、2位は東京都で337・4人(42・4人増)。大分県は303・8人(28・3人増)。県国際政策課は「海外の人材が大分県で学び、卒業後も県内で就職や起業をしてもらえるよう、県海外戦略に基づき支援制度の充実・改善をしていく」と話している。(徳光瑞稀)

〔問①〕 2023年度に大分県内の大学・大学院などに在籍していた外国人留学生は3330人でした。何カ国・地域から来県していますか？

109カ国・地域

〔問②〕 人口10万人当たりの全国順位で大分県は3位でした。1、2位は？

1位 = 京都府、2位 = 東京都

〔問③〕 留学生をさらに増やすため、卒業後も大分県内で就職してもらうため、どういったことをすべきだと思いますか。

自由記述